

CLOSE UP!



■説明は
徳島大学病院
下肢救済・創傷治療センター
副センター長
山下 雄太郎
(やました ゆうたろう)
■お問い合わせ先
形成外科・美容外科外来
Tel: 088-633-7047

患者さんへひとこと

難治性潰瘍は1か月以上治らないもののことを言います。

下肢救済・創傷治療センターでは、褥瘡などの足以外の難治性潰瘍も診療しています。

小さい傷でも異変を感じた場合はお早めにご相談いただければと思います。

下肢救済・創傷治療センターについて

糖尿病などの病気では、合併症として足の病気になることがあります。それは時として下肢の切断にも繋がりがねないものです。徳島大学病院ではこのような下肢切断を最小限に抑えようと、令和4年8月に下肢救済・創傷治療センターを設置しました。今回は、下肢救済・創傷治療センターの取り組みについて紹介します。

難治性潰瘍と下肢救済・創傷治療センター

徳島県に患者さんが多い糖尿病では、靴擦れや足の变形、足への細菌の感染など様々な足のトラブルが生じることがあります。これは糖尿病を原因とする血管障害や神経障害、免疫低下によって生じます。傷・火傷などの異変があっても痛みに気づきにくく、また治りにくいため放置すると、難治性潰瘍(治りにくい慢性的な傷)から壊死性筋膜炎(壊死した部分が細菌感染などにより悪化したもの)、虚血による壊疽(血流が悪くなり組織が死んでしまうこと)など重大な状態に陥り、最悪の場合、足の切断という選択をしなければならないこともあります。

また、糖尿病を原因とするもの以外にも、膠原病や、動脈硬化症、褥瘡、放射線照射などによる難治性潰瘍があります。そのため、原因や治療法などによって様々な診療科・部署が関わる必要があり、本院では下肢救済・創傷治療センターがその指揮をとって治療をしています。単一科では難しい治療も総合病院の強みを生かし、できる限り下肢切断をしないよう、また切断が必要である場合にはそれが最小限のものとなるよう努めています。

本センターでは月に1回、多職種でカンファレンスを実施し、治療についての情報共有や相談、協議を行い、院内の連携強化を図っています。そうすることにより、本セン



(図) 下肢救済・創傷治療センターの構成

【下肢救済・創傷治療センター】

形成外科	⇒ 創傷治療、血行再建、免荷手術
心臓血管外科、循環器内科	⇒ 血行再建、心臓疾患治療
内分泌・代謝内科	⇒ 血糖コントロール
腎臓内科	⇒ 透析、LDLアフェレーシス※
リハビリテーション部	⇒ リハビリテーション
整形外科	⇒ 足変形手術、リウマチ治療
栄養部	⇒ 栄養管理
看護師、褥瘡対策室	⇒ フットケア、褥瘡予防、看護

ター設立以前より難治性潰瘍の治療が迅速に行えるようになりました。

本院での治療の流れとしては、患者さんにはまず形成外科の外来を受診いただき、原因の特定と、足の状態が悪くならないように処置・管理を行います。多くの場合、靴に問題があり、足の状態を悪くしているため、靴の装具作成なども行います。一方、他の診療科での血行再建や血糖コントロールなど患者さんに必要な治療に繋がっていきます。(図参照)。

今後の課題

現在本センターでは、1月あたり新規の患者さんは10名前後、経過観察している患者さんは30～40名程度来院されており、以前よりご紹介いただくようになりました。症状が重症に至る前の患者さんを診察することも少しずつですが増えてきています。しかし、今後増えていくであろう患者さんに対応するためには、重症化する前になるべく早く治療を開始する必要があります。今後も本センターの取り組みについて引き続き周知を図っていききたいと思います。



カンファレンスの様子